

における合意と集落」の報告が行われた。

第二九回大会に参加して

荒 稲 豊

村研二九回大会は、十月十四・十五日、紅葉の日光中禅寺湖畔、幸の湖莊にて開催された。第一日目午前中、内田博栄「昭和期の農村人口移動の展開—福島県平地農村の事例ー」、熊川富男「能登島町綾目における親族組織と集落構造」、佐渡和子「沖縄村落の社会構造」、大野晃「山村社会における商品生産の展開と農民層の動向—高知県十和村古城部落の事例ー」、横山敏・小林一穂・武田共治「集団栽培後の圃場整備・水田利用再編成と村落の変容—山形県鶴岡市京田地区林崎部落の事例ー」の自由報告がなされ、その後、課題報告として、佐々木豊「明治・大正期の農村計画構想」、森芳三「昭和初期の経済更生運動と満州農業移民」の報告があった。第二日目には、課題報告の後半である、武田共治「米の生産調整と農民の対応—福島県北会津村真渡部落の事例ー」、工藤清光「農村計画にかわって、1. 主体の問題及びコア・グループの形成について、2. 農

討論は、岩本・高橋(正)・岩崎会員の司会進行により進められた。課題報告が、前の二者は戦前の農村計画に関するものであり、後の二者は戦後のそれであつたため、まず、司会の岩本会員の、とにかく戦前における農村計画の論点整理から始められた。集落レベルを対象とした石川理紀之助があつたため、まず、行政村レベルの農村計画が立ち現われてくる。町村は、地方財政の危機を背景にして生まれてきてること、そして、その批判としての報徳社の存在について注目する必要がある。また、地方改良運動下における郷土史編纂事業、經濟更生運動下の郷土教育なども重要であることが指摘された。

町村はと地方改良運動との関係如何、国の政策との関係について、自主的計画であつても結局は国にくみ込まれ、統合されてゆくのではないかとの東発言を受けて、佐々木会員から、経済構造に関わった町村はが政治構造・国家体制という問題関心の中に包摂されてゆくなかで、地方改良運動へつながるのであり、確かに町村はにおいて、経済状態克服のために自主計画をしたものが、その実行のために諸々の政策を利用せざるを得ず、結果的には国に統合されてゆくことになるのだとの見解が示された。また、森会員からは、経済更生時においても、そのことはいえるとし、政策指定という強制と農民の合意との連接化が重要なポイントとなろうとされた。

午後に入つて、司会の高橋(正)会員から、戦後の農村計画にかかる、1. 主体の問題及びコア・グループの形成について、2. 農

村自治と関連した農村計画の内容の明確化、とりわけ、土地問題が中心的課題となる必要があること、3.合意の形成について、以上3つの論点が提起された。岩崎会員からは、耕作農民の主体性による課題解決の可能性、日本の民主主義における集落・村の位置づけ如何が問われた。

自作農的小家族的農業経営を維持する形での主体のまとまる範囲が問題となるとの長谷川発言や土地所有と利用における潜在主体（全農家）・指導主体（意欲的な農業経営）・認識主体（テクノクラート）の存在を考える必要があるとの高橋（明）発言があり、主体をめぐる論議が展開していくたが、担い手の具体的なイメージがかめないと安原発言にみられるように、いかなる農民が担い手になります、また、農民の主体性の現われ方はどうなのかということには及ばなかつた。安孫子会員からは、主体といつても、政策に順応してゆく主体や対抗・利用の主体というふうにさまざまの段階の主体が現実的であるうとされ、農民に主体を置くことの意味の検討が要請された。また、大野会員から、農家の中の主婦層の主体とかかわりの重要性が十和村の事例をひいて指摘された。情報化の質や財政との関わりにおける合意形成の意味が問われる今日、中央集権的体制の中で果して主体性は確立できるのかとの鈴木（勇）発言は興味深いものであった。最後に、島崎会員から補助金の問題がとり上げられ、補助金やコミュニティ活動などの上からの自発性換起のみられる現状で、農民の自主性は限られているのではないか疑念が表明された。

以上が討論のおおよその展開である。どれもこれも事例を踏まえた上での発言であり、私は、それなりに非常に説得力のあることに驚かされた。抽象的な不毛の議論を超えて、現実問題を真正面から把え、問題解決をはかるうとする気構えを私は高く評価したいと思う。新入会員の私にとって、この討論はいささか情報量過多といえそうで、問題整理に困惑している有様であるが、農村計画それ自体の意味内容、とりわけ、政策的再編と農民の自主的計画との対抗の関係は、今後とも執拗に検討されねばならない重要なテーマであろうと思う。最後になるが、この大会に出席でき、昼夜なく多くの御教示を受ける好機に恵まれたことを感謝したい。

大会運営にあたつて多くの御尽力下さった主催校宇都宮大学のみなさまはじめ、関係者の方に対して謝意を表したい。